

研究課題名	死線期におけるプレアルブミンの各種組織への影響についての検討
<b>研究の意義・目的</b>	<p>プレアルブミン(トランスサイレチン)は肝臓,脳の脈絡叢などで産生されています。半減期が2日と短く急性相反応物質であることから,短期間の生体内での異常を反映して変動します。肝臓で合成されるタンパク質であるプレアルブミンは,半減期が短い栄養状態および肝臓のタンパク質合成能の把握に有用です。一方,近年プレアルブミンは脈絡叢から産生されるため中枢神経細胞との関係が検討されています。近年においては,神経疾患の病態解明に寄与していることが判明しています。しかしながら,法医学分野において,あらゆる中枢神経の機能不全でこのプレアルブミンがどのような変化を示すのか検討した報告は認められません。そこで,生体内においてどのような病態であるのかと,その意義について免疫染色や分子生物学的な手法等を用いて検討することにしました。</p>
<b>研究を行う期間</b>	<p>研究機関の長の研究実施許可日～2028年3月31日</p>
<b>研究協力を お願いしたい方 (対象者)</b>	<p>1.2010年1月から2028年3月に大阪公立大学大学院医学研究科法医学で司法解剖された症例。 2.血液・脳脊髄液・尿・心膜液などの各種体液試料,および脳,下垂体,脈絡叢,心臓,肝臓,腎臓,副腎などの組織試料が採取できた症例が対象となります。また,以下に該当する症例は除外します。 (ア)高度腐敗症例など,試料の採取が不可能な症例。 (イ)複数の死因となる要素が重複するような症例。</p>
<b>協力をお願いしたい 内容と研究に使わせて いただく試料・情報 等の項目</b>	<p>鑑定過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。試料:[血液,脳脊髄液,尿,心膜液,硝子体液,左右胸腔内液,腹腔内液,胆汁,骨髓穿刺液,胃内容物などの体液試料,および脳,下垂体,脈絡叢,心臓,肝臓,腎臓,副腎などの各種組織試料] 診療情報等:[患者基本情報:年齢,性別,死亡までの過程に関する情報,死後経過時間,発病後経過時間など,また,生化学的・中毒学的・病理学的検査結果など]</p>
<b>試料・情報の 提供を行う機関の名称 及びその長の氏名 (提供元について)</b>	<p>公立大学法人大阪 理事長 福島伸一</p>
<b>提供する試料・ 情報の取得の方法</b>	<p>この研究は株式会社エスアールエルにプレアルブミンの測定を依頼します。その際は、特定個人を識別できない形で試料を提供します。</p>
<b>試料・情報を利用する 者の範囲</b>	<p>この研究は,大阪公立大学大学院医学研究科法医学(研究責任者:石川隆紀)で行います。</p>
<b>試料・情報の管理に ついて責任を有する 者の研究機関の名称</b>	<p>公立大学法人大阪,大阪公立大学大学院医学研究科</p>

<b>本研究の利益相反</b>	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
<b>研究に協力をしたくない場合</b>	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、死因診断に関する不利益等を受けることはありません。
<b>連絡先</b>	大阪公立大学大学院医学研究科 法医学 (担当者氏名)石川隆紀 電話番号(06-6645-3767) メールアドレス: gr-med-legalmed@omu.ac.jp